



日本酸素ホールディングス

日本酸素ホールディングス株式会社

2021年3月期 第3四半期決算テレフォンカンファレンス

2021年2月2日

登壇

縦山：皆様、本日はご多用の折、日本酸素ホールディングス、2021年3月期第3四半期決算テレフォンカンファレンスにご出席賜り、誠にありがとうございます。私は財務・経理室 IR 部の縦山と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

説明会を始めます前に、資料についてご案内いたします。ご参加のお申込みをいただいた方には、開催直前ではございましたが、本日の会議資料をメールにてご案内いたしました。またコーポレートサイト IR ページでも掲示しております。

それでは本日の出席者をご紹介します。執行役員 財務・経理室長 兼 CFO、アラン・ドレイパーでございます。執行役員 経営企画室長、諸石でございます。財務・経理室 IR 部長、梅原でございます。財務・経理室 経理部長、吉田でございます。

続いて、本日の進行につきまして、ご案内いたします。まず CFO のドレイパーより開会のご挨拶をさせていただきます。その後、IR 部長の梅原より決算概況につきまして、資料に沿ってご説明いたします。質疑応答につきましては、説明終了後にお時間を設けます。質疑応答のお時間になりましたら、具体的な手順をお知らせするとともに、音声ガイダンスでもご案内いたします。なお、本日は日本語回線と英語回線のバイリンガルで実施しており、同時通訳を実施しております。

まず財務・経理室長 兼 CFO、アラン・ドレイパーより開会挨拶を申し上げます。

ドレイパー*：アラン・ドレイパーです。まずは、私どもの社員に感謝を申し上げたいと思います。努力をこの難しい時代にしてくれています。製造施設であろうが、配送トラックの運転をしているのであろうが、工場や家で仕事をしているのであろうが、頑張っていることをしてくださっています。現場の社員に感謝をしたいと思います。彼らはまさに真のヒーローです。重要な製品が医療施設、病院、そして家にきちんと運ばれることを確保してくれています。彼らのプロフェッショナルリズム、そして努力に感謝したいと思います。

今日のミーティングは、まず私たちの業績のアップデートから始めたいと思います。そのあとに梅原さんにマイクを渡したいと思います。

第3四半期、10月～12月期ですけれども、売上はマイナス1%で、コア営業利益は4%上がりました。これは私たちのチームがそれぞれの場で頑張ったことによるものです。コストをコントロールし、裁量支出を抑え、そして価格のパフォーマンスを改善してきました。現在の累計を見ますと、まだ前年に後れをとっており、5,922億円です。これはマイナス6.5%です。そしてコア営業利益

は 604 億で、前年比でマイナス 11.4%となっています。9 月時点の累計のパフォーマンスと比べますと、かなり回復しています。その時点では、売上はマイナス 9%、そしてコア OI はマイナス 19%でした。

もちろんまだ不安定要素があります。国々は第 2 波、第 3 波に苦しんでいます。しかしそうはいつでも、われわれはこのあとの年度内業績予想に関しましては、それなりの自信を持っており、修正を行うことにいたしました。

売上収益は 8,300 億から 8,020 億円に下方修正いたします。マイナス 3.4%、同時にコア営業利益のガイダンスを 1.2%引き上げます。820 億から 830 億です。さらに営業利益の予測に関しましては、820 億から 846 億に上方修正いたします。また当期利益のガイダンスを 440 億から 481 億円に上方修正、プラスの 9.3%です。

営業利益には訴訟の和解金が含まれます。これは第 3 四半期に起きたもので、合計 26 億円です。さらに、このあとの第 4 四半期に、非経常費用として 10 億円を計上予定です。これら 2 件の非経常項目はコア営業利益の下に計上されます。

当期利益のプラス 9.3%、これは前の予測からプラス 9.3%ですけれども、こちらはコア営業利益の利益率が高くなったこと、またネットで非経常利益が出たこと、さらに金利の支払と法人所得税が当初の予想より下がったことによるものです。われわれのチームは、管理できる項目につきましては、引き続き管理をしまいたします。

それでは梅原さんに、全体的なビジネスアップデートについて、話してもらいます。

梅原：IR 部の梅原です。説明をさせていただきます。まず事業環境に触れますと、前回 10 月に比べて、新型コロナウイルス感染症が拡大している国が多くある中、当社グループにおいては、現時点で産業ガスの生産および供給について、大きな支障は出ておりません。各地域とも景気回復基調ではありますが、感染症拡大による景気低迷、生産活動の限定の影響というものを全体として受けております。

1-1. 業績概要

単位：億円	20/3月期 3Q実績 利益率	21/3月期 3Q実績 利益率	前年同期比 増減率
売上収益	6,334	5,922	-412 -6.5%
コア営業利益	682 10.8%	604 10.2%	-78 -11.4%
非経常損益	36	26	-10
営業利益	718 11.4%	631 10.7%	-87 -12.2%
金融損益	-109	-84	+25
税引前四半期利益	609	547	-62
法人所得税	-183	-164	+19
四半期利益	425	382	-43
(四半期利益の帰属)			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	413 6.5%	373 6.3%	-40 -9.8%
非支配持分に帰属する四半期利益	11	9	-2

● 適用為替レート（期中平均レート）

単位：円	USD (米ドル)	EUR (ユーロ)	SGD (星ドル)	AUD (豪ドル)
2020年3月期 3Q	108.89	121.12	79.59	74.93
2021年3月期 3Q	105.54	122.61	76.92	74.75



NIPPON SANSO HOLDINGS

3

それでは3ページの業績概要より説明いたします。売上収益は5,922億円で、前期比マイナス412億円、マイナス6.5%の減収となりました。前期と比較した為替換算レートによる影響額はマイナス42億円であり、この影響を除くと370億円の減収となります。

なお為替レートですが、USドルが前期3Qで1ドル108円89銭、今期は1ドル105円54銭。ユーロでは前期3Qで1ユーロ121円12銭、今期3Qが122円61銭。USドルではマイナスの46億円、またユーロでは円安の影響でプラスの15億円、その他の通貨でマイナス11億円の影響がありました。

続いてコア営業利益ですが、604億円で前期比マイナス78億円、マイナスの11.4%の減益となりました。為替換算の影響額はマイナスの4億円です。この影響を除くと74億円の減益となります。

次に非経常損益ですが、前期比マイナス10億円の減益、26億円となりました。この26億円の利益は、米国におけるヘリウム原料ガスの供給会社の不履行に係る訴訟の和解金というものです。この非経常損益を含んだ営業利益は631億円となり、前期比マイナス87億円、マイナス12.2%の減益となりました。

金融損益はマイナスの 84 億円計上されており、前期比で 25 億円減少しております。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は 373 億円で、前期比マイナス 40 億円、マイナス 9.8%の減益となり、全体を通じまして、減収減益となりました。

1-2. セグメント別業績：国内ガス事業

単位：億円				20/3月期 3Q	21/3月期 3Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セバレートガス 他	114	101	-13	-11.0%
			パッケージ 小計	114	101	-13	-11.0%
		バルク	セバレートガス	364	340	-24	-6.7%
			炭酸ガス	178	167	-11	-6.4%
			ヘリウム	34	38	+4	+14.5%
			その他ガス	75	65	-10	-12.9%
			バルク 小計	652	612	-40	-6.2%
		オンサイト	セバレートガス	537	485	-52	-9.7%
			その他ガス	48	45	-3	-6.1%
			オンサイト 小計	585	531	-54	-9.4%
	L Pガス			203	172	-31	-15.4%
	特殊ガス			197	201	+4	+2.4%
	小計			1,753	1,619	-134	-7.7%
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他		553	506	-47	-8.5%
		エレクトロニクス関連		111	133	+22	+19.0%
		溶接・溶断関連		183	163	-20	-10.8%
		小計		848	803	-45	-5.4%
売上収益 合計			2,602	2,422	-180	-6.9%	
セグメント利益			199	191	-8	-4.2%	

売上収益増減要因

- ・バルク・オンサイト（セバレートガス）：
製造業全般で需要が大きく減少
- ・機器・工事 他（エレクトロニクス関連）：
半導体メーカー向け機器・設備工事の計上

セグメント利益増減要因

- ・バルクでは、主にセバレートガスの減収による減益
- ・燃料価格下落によるコスト低減
- ・エレクトロニクス機器・工事での増収による増益

5

続きまして、各セグメントの状況を説明いたします。まず国内ガス事業ですが、資料の 5 ページになります。回復基調ではありますが、売上収益は 2,422 億円で、前期比マイナス 180 億円、マイナス 6.9%の減収となりました。

増減要因ですが、パッケージガスはマイナスの 13 億円、バルクではマイナス 40 億円の減収です。国内製造業の需要は、自動車産業など回復しつつあるものの、鉄鋼、非鉄、輸送機器、金属加工、化学など、全般的に弱く、酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガスともに減少いたしました。

続いて、オンサイトでは 54 億円の減収となりました。需要面での製鉄、特殊鋼、非鉄、化学、それぞれの需要減少によるものです。

LP ガスでは 31 億円の減収です。輸入価格に連動し、販売価格が下落したことで減収となっております。

特殊ガスはプラス 4 億円の増益です。引き続き、メモリ、CMOS、センサーの需要は堅調です。このほか、電子関連、液晶は回復基調ではありますが、ソーラーパネル向けは低調です。

ガス関連プラントですが、前期に計上された大型案件の剥落もあり、マイナス 47 億円の減収です。

エレクトロニクスは、半導体向け工事が堅調に推移し、また MOCVD 関連の販売もあり、プラス 22 億円の増収となりました。

溶接・溶断関連では、市況が全般的に軟調であり、マイナス 20 億円の減収です。

続いてセグメント利益ですが、191 億円で前期比マイナス 8 億円、マイナス 4.2%の減益となりました。増減の要因ですが、電力コスト、燃料調整費の低下の影響ということで、前期比でプラス 8 億円の増益を含んでいます。しかしながら、パッケージ、バルクでは、価格改定の効果を含んでいるものの、上期の国内製造業の大幅な需要減の影響で、マイナス 9 億円の減益となっています。一方、炭酸ガスでは外食向けの減収はあったものの、前期比では横ばいです。

オンサイトは、前期に引き続き製鉄所向けの減収に加えて、特殊鋼、石油化学向けの減収がありまして、マイナス 6 億円の減益となっております。LP ガスでは、需要減に加え、輸入価格の下落の影響による減収がありましたが、損益としては、前期比プラスの 1 億円となっております。

特殊ガスでは、CMOS、メモリ向けの需要は堅調に推移いたしましたが、損益としては、現状、横ばいです。ガス関連プラントでは、医療関連での特需効果がございましたが、前期の大型プラントの剥落があり、ガス機器を含めた全体としては、マイナス 13 億円の減益となりました。

エレクトロニクス関連の機器・工事はプラス 8 億円の増益となっております。また溶断・溶接関連は、減収により 4 億円のマイナス、減益となっております。また 2Q には、一過性の収益と経費減によって 7 億円ほどの増益が含まれております。

1-2. セグメント別業績：米国ガス事業

単位：億円				20/3月期 3Q	21/3月期 3Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セパレートガス 他	361	304	-57	-15.7%
			パッケージ 小計	361	304	-57	-15.7%
		バルク	セパレートガス	277	255	-22	-7.9%
			炭酸ガス	193	180	-13	-7.1%
			ヘリウム	43	54	+11	+25.0%
			その他ガス	66	85	+19	+27.8%
			バルク 小計	582	576	-6	-1.1%
		オンサイト	セパレートガス	71	65	-6	-8.2%
			その他ガス	99	89	-10	-10.4%
			オンサイト 小計	170	154	-16	-9.5%
	LPガス			28	25	-3	-11.9%
	特殊ガス			49	49	+0	+0.0%
	小計			1,193	1,110	-83	-6.9%
	機器・工事 他	エレクトロニクス関連		35	45	+10	+28.5%
		溶接・溶断関連		259	237	-22	-8.5%
小計		295	283	-12	-4.0%		
売上収益 合計				1,488	1,393	-95	-6.4%
セグメント利益				167	160	-7	-4.2%

※為替換算による影響：売上収益 ▲45.7億円 セグメント利益 ▲5.2億円

売上収益増減要因

- ・パッケージ・バルク：製造業全般で需要が大きく減少
- ・ヘリウム：価格改定効果による増収
- ・オンサイト：供給先の稼働低調による減収
- ・溶接・溶断関連：自動車・建設向け需要軟調による減収

セグメント利益増減要因

- ・バルクでは、主にセパレートガスの減収による減益
- ・パッケージガス、溶接・溶断関連での減収による減益
- ・事業外取引から生じた一過性収益の計上及び前期分割落
- ・合理化対応

6

続きまして、米国ガス事業の説明をいたします。資料の6ページになります。米国ガス事業の売上収益ですが、1,393億円で前期比マイナス95億円、マイナス6.4%の減収となりました。為替換算による影響はマイナス46億円で、この影響を除いた事業ではマイナス49億円の減収となります。

決算補足資料の商品別売上収益には為替の影響を含んでおりますが、為替影響を除いた商品別の前期比増減額を申し上げます。パッケージはマイナス46億円、バルクはプラス12億円、オンサイトはマイナス11億円、LPガスはマイナス3億円、特殊ガスはプラス2億円、機器・工事では、エレクトロニクス関連がプラス11億円、溶接・溶断関連はマイナス14億円となります。

パッケージガスでは、足元は回復基調ではありますが、自動車・輸送機器向けの金属加工向けの需要が大幅に減退しました。

またバルク11億円の内訳は、セパレートガスではマイナスの13億円、炭酸ガス・ドライアイスではマイナスの8億円、いずれのガスも2Qから3Qにかけては回復基調です。またヘリウムはプラスの12億円、またその他のガスというところで、20億円の増収となっています。

オンサイトではセパレート、その他のガスを含め、全般的な需要減退により、前期比マイナス 11 億円の減収です。またエレクトロニクス向けは、国内需要増により、特殊ガスで前期比プラス 2 億円、機器・工事でプラス 11 億円の増収です。

溶接・溶断関連の販売は、上期での自動車・建設関連需要の減少から、回復しつつあるものの、マイナス 14 億円と大幅に減収となっております。

続いてセグメント利益ですが、160 億円で前期比マイナス 7 億円、マイナス 4.2%の減益となりました。為替による影響はマイナス 5 億円で、為替影響を除くとマイナス 2 億円の減益となります。

前期比較の内訳ですが、まず 2Q に一過性の収益、前期ですけれども、13 億円計上しており、その剥落が含まれております。また、バルク・パッケージの内訳につきましては、1Q のコロナによる経済減速の影響を受けていますが、2Q 以降は価格改定の効果もあり、セパレートガスはプラスの 2 億円、炭酸ガスでプラスの 2 億円の増益、ハードグッズ・パッケージではマイナス 4 億円の減益。一方、ヘリウムでは価格改定が進み、プラス 3 億円の増益となっております。

オンサイトについてはマイナス 1 億円の減益、機器関連ではエレクトロニクス向けでマイナス 1 億円の減益です。また合理化、コストダウンでプラス 4 億円の収益貢献をしております。また今期、2Q に発生した一過性の利益の計上として、プラス 6 億円を含んでおります。

1-2. セグメント別業績：欧州ガス事業

単位：億円				20/3月期 3Q	21/3月期 3Q	増減額	増減率
売上収益	ガス	パッケージ	セパレートガス 他	310	274	-36	-11.5%
			パッケージ 小計	310	274	-36	-11.5%
		バルク	セパレートガス	289	276	-13	-4.5%
			炭酸ガス	187	170	-17	-8.8%
			ヘリウム	59	55	-4	-6.5%
			その他ガス	53	53	-0	-0.6%
		バルク 小計	589	555	-34	-5.7%	
		オンサイト	セパレートガス	164	153	-11	-7.2%
			その他ガス	28	25	-3	-10.1%
			オンサイト 小計	193	178	-15	-7.6%
		特殊ガス	50	49	-1	-2.5%	
		小計	1,143	1,058	-85	-7.5%	
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他	86	80	-6	-6.4%	
		溶接・溶断関連	23	20	-3	-12.2%	
		小計	109	101	-8	-7.7%	
売上収益 合計				1,253	1,159	-94	-7.5%
セグメント利益				192	145	-47	-24.1%

※為替換算による影響：売上収益 +15.4億円 セグメント利益 +2.3億円

※今期に商品集計区分を見直したため、上記2020年3月期3Q実績で表示している業績情報は前年同期の開示情報と異なります。

売上収益増減要因

- ・パッケージ：主にイタリアでの冷媒事業（次世代冷媒）の販売軟調に加え、セパレートガスを中心に減収
- ・バルク・オンサイト：製造業全般で需要が大きく減少（新型コロナウイルス感染症拡大による業績影響は大）

セグメント利益増減要因

- ・バルク・パッケージほか全般で大幅な減収による減益
- ・冷媒事業（次世代冷媒）の販売軟調による減益
- ・バルクにおける価格改定効果による増益

7

続きまして、欧州事業の業績を説明いたします。資料の7ページです。欧州については、早い段階から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けており、欧州ガス事業の中心的市場でもあるスペインやイタリアなどで大きな影響を受けております。2Q以降、回復を見せておりました。足元、現地通貨ですけれども、10月-12月の期間実績では前期を上回る売上収益となりました。

欧州事業の売上収益は1,159億円で、前期比マイナス94億円、マイナス7.5%の減収となりました。為替による影響はプラス15億円で、この影響を除いた事業では、マイナス109億円の減収となります。

決算補足資料の商品別売上収益には為替による影響が含まれておりますが、この影響を除いた商品別の前期比増減額を申し上げます。パッケージでマイナス40億円、バルクでマイナス41億円、オンサイトでマイナス17億円、特殊ガスでマイナス2億円、機器・工事では、ガス関連などでマイナス7億円、溶断・溶接関連ではマイナスの3億円となります。

パッケージでは、主にイタリアでの冷媒事業で、次世代の代替フロンへの切替え需要が低迷していることが影響しております。バルクガスでは全体的な需要減により、内訳はセパレートガスでマイナス17億円、炭酸でマイナス19億円、ヘリウムでマイナス5億円となります。

オンサイトは3Qにかけて鉄鋼需要が復調しているものの、上期の低迷の影響を受けまして、マイナス17億円、特殊ガスは主に車載向けのエレクトロニクス向けの需要減でマイナス2億円です。プラントガスの関連機器はマイナス7億円、溶断・溶接関連がマイナス3億円となりました。

セグメント利益ですが、145億円、前期比マイナス47億円、マイナス24.1%と大幅な減益となります。為替による影響はプラスの2億円で、為替影響を除くとマイナス49億円の減益となります。価格改定の効果などが含まれておりますが、減益の要因は、新型コロナウイルス感染症拡大による産業全体の需要減による販売数量の減少が大きな要因となっております。

1-2. セグメント別業績：アジア・オセアニアガス事業

単位：億円			20/3月期 3Q	21/3月期 3Q	増減額	増減率	
売上収益	ガス	パッケージ	セバレートガス 他	27	26	-1	-5.5%
			パッケージ 小計	27	26	-1	-5.5%
		バルク	セバレートガス	123	110	-13	-10.8%
			炭酸ガス	13	13	-0	-4.7%
			ヘリウム	41	41	+0	+0.2%
			その他ガス	20	21	+1	+2.4%
		バルク 小計	199	185	-14	-6.7%	
		オンサイト	セバレートガス	27	26	-1	-4.8%
			オンサイト 小計	27	26	-1	-4.8%
			LPガス	112	108	-4	-3.2%
		特殊ガス	205	238	+33	+15.8%	
		小計	572	585	+13	+2.2%	
	機器・工事 他	ガス関連・プラント 他	128	106	-22	-16.7%	
		エレクトロニクス関連	52	43	-9	-16.7%	
		溶接・溶断関連	37	34	-3	-8.7%	
小計		218	185	-33	-15.3%		
売上収益 合計			791	770	-21	-2.6%	
セグメント利益			81	81	-0	-0.4%	

※為替換算による影響：売上収益 ▲10.3億円 セグメント利益 ▲0.7億円

売上収益増減要因

- ・バルク：フィリピンでは都市封鎖の影響で、需要が大幅に減少し、出荷数量減。その他の地域も同様に減収
- ・特殊ガス：中国・台湾での電子材料ガスの出荷は好調

セグメント利益増減要因

- ・中国・台湾での電子材料ガスの増収による増益
- ・豪州でのLPガス事業の採算性改善
- ・東南アジア全般での減収による減益

8

次にアジア・オセアニアガス事業の説明をいたします。資料の8ページです。アジア・オセアニアのガス事業も、全般的に1Qに新型コロナウイルスの影響を受けておりますが、産業活動の分野も復調の傾向は見られております。また東アジアのエレクトロニクス向けの需要は、新型コロナウイルスの影響を受けずに堅調に推移をしております。

売上収益ですが、770 億円で前期比マイナス 21 億円、マイナス 2.6%の減収となりました。為替による影響はマイナス 10 億円で、この影響を除いた事業ではマイナス 11 億円の減収となります。

決算補足資料の商品別売上収益には、為替による影響が含まれておりますが、影響を除いた商品別の前期比増減額を申し上げます。パッケージでマイナスの 1 億円、バルクでマイナスの 9 億円、オンラインでマイナスの 1 億円、LP ガスでマイナスの 3 億円、特殊ガスでプラスの 35 億円、ガス関連・プラントほかではマイナスの 20 億円、エレクトロニクス機器・工事はマイナスの 10 億円、溶接・溶断関連はマイナスの 2 億円となります。

バルクのマイナス 9 億円の内訳ですが、セパレートガスはフィリピン、タイ、豪州、ベトナムなどで需要が低迷し、マイナス 11 億円の減収。炭酸ガスは横ばいです。ヘリウムではインドの販売が回復基調となり、プラスの 2 億円となっております。

また LP ガスは、豪州で主に CP 価格下落が販売価格まで反映しているというところがございまして、マイナス 3 億円の減収となりました。特殊ガスでは、半導体市況の堅調を受け、需要が上がっております。地域別には中国でプラス 27 億円、台湾でプラス 11 億円、シンガポールでプラス 4 億円の増収、韓国ではマイナス 8 億円の減収、その他でプラス 1 億円の増収となっております。

ガス関連プラントでは、スポット工事などがあったものの、シンガポール、マレーシアの Leeden NOX での主に防火関連の設備が低調であったこともございまして、マイナス 20 億円の減収となりました。

続いて、エレクトロニクス関連の機器・工事では、台湾の工事が進行基準ベースの計上ではありますが、前期の剥落もございまして、マイナス 10 億円の減収となっております。溶接・溶断関連では、シンガポールでの 1Q の新型コロナによる建設活動停止等の影響を受けてございまして、マイナスの 2 億円となっております。

次にセグメント利益ですが、81 億円で前期並みとなりました。為替による影響額はマイナスの 1 億円で、この影響を除いた事業ではプラス 1 億円の増益となります。Leeden NOX では減収によりマイナス 1 億円の減益、フィリピンではマイナス 2 億円、タイではマイナス 1 億円の減益となりました。またベトナム、インド、中国の産業ガスについては、ほぼ横ばいです。

オーストラリアの Supagas では、前期比プラスの 3 億円、LP ガス仕入れ価格下落により、利益貢献の局面をいまはまだ維持できております。エレクトロニクス関連では、特殊ガスについてはプラス 2 億円、こちらは機器・工事も含んでおります。

1-2. セグメント別業績：サーモス事業

単位：億円		20/3月期 3Q	21/3月期 3Q	増減額	増減率
売上収益	国内	172	151	-21	-12.4%
	海外	26	25	-1	-3.8%
売上収益 合計		198	176	-22	-11.2%
セグメント利益		60	35	-25	-41.3%

※為替換算による影響：売上収益 ▲0.7億円 セグメント利益 ▲0.1億円

売上収益増減要因

- ・国内：外出・店頭営業活動の自粛による販売機会の逸失で、出荷数量減。その一方、在宅の巣籠もり需要によりフライパン・タンブラーは堅調
- ・海外：各地域で出荷数量が減少したことで減収

セグメント利益増減要因

- ・国内：新学期や行楽シーズン等の販売機会を活かせず、主力であるケータイマグの大幅な減収による減益
- ・海外：生産工場の稼働調整に加え、持分法適用会社の販売は低調

9

続いてサーモス事業について、説明をいたします。資料9ページです。売上収益は176億円で前期比マイナス22億円、マイナス11.2%の減収となりました。為替による影響は約マイナス0.7億円で、この影響を除いた事業では21億円の減収となります。

国内事業では21億円の減収となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主力製品であるスポーツボトルとケータイマグの需要の低下、また海外への主にお土産として利用されていたインバウンドの需要もなくなりました。一方、巣籠もり消費といわれる家庭内で使用されているフライパンやタンブラーなどの需要は3Qでも増えており、このカテゴリーは好調に推移をしております。

海外では、韓国にて景気の低迷と日韓関係による販売環境の変化の影響を引き続き受けております。また、マレーシア、フィリピンの生産工場では、1Qでのロックダウンによる停止の影響というものを受けております。足元では操業が上がってきており、為替の影響を除くと、ほぼ前期並みとなっております。

セグメント利益ですが、35億円、前期比マイナスの25億円、マイナス41.3%の減益となりました。為替による影響は、ほぼございません。国内では減収により、マイナス8億円の減益、海外で

は工場のロックダウンの影響もございまして、マイナス 5 億円の減益となりました。持分法の利益などでは、マイナス 11 億円の減益です。主に中国国内の景気回復の遅れが影響しております。2021 年 3 月期 3Q の業績に関する説明は以上のとおりです。

2 - 1. 2021年3月期 業績予想概要

単位：億円	20/3月期 通期実績 利益率	21/3月期 通期予想 (2/2発表) 利益率	前期比 増減率	21/3月期 通期予想 (前年5/12発表) 利益率
売上収益	8,502	8,020	-482 -5.7%	8,300
コア営業利益	903 10.6%	830 10.3%	-73 -8.1%	820 9.9%
非経常損益	35	16	-19	-
営業利益	939 11.0%	846 10.5%	-93 -9.9%	820 9.9%
金融損益	-147	-117	+30	-145
税引前利益	791	729	-62	675
法人所得税	-240	-233	-7	-215
当期利益	550	496	-54	460
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	533 6.3%	481 6.0%	-52 -9.8%	440 5.3%
非支配持分に帰属する当期利益	16	15	-1	20

● 適用為替レート（期中平均レート）

単位：円	USD（米ドル）	EUR（ユーロ）
2021年3月期 想定（2/2発表）	105	123
2021年3月期 想定（前年5/12発表）	108	120
2020年3月期 実績	108.95	120.85



10

最後に本日公表いたしました 2021 年 3 月期通期の業績予想の修正について、説明をいたします。資料の 10 ページになります。

今回、昨年 5 月 12 日の決算短信で公表した通期の予想を修正しております。売上収益は 8,020 億円で、当初の予想比マイナス 280 億円、3.4%下回る予想です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第 1 四半期の実績が大きく落ち込んだあと回復基調となりましたが、コロナの影響が長期化しているというところで、需要の戻りが鈍くなっていることや、顧客の設備投資の先延ばしなどの影響を受けております。

一方、コア営業利益ですが、830 億円で当初の予想比よりプラスの 10 億円、1.2%のプラス、営業利益は 846 億円で、当初の予想比プラス 26 億円、プラスの 3.2%と、予想を上回る予定です。売

上収益の減少の影響を受けるも、米国・欧州での事業が、予想と比べて比較的好調であったことに加え、生産性の向上、原価の低減、間接費・コストの管理を徹底したということが寄与してございます。

なお非経常損益につきましては、アジア・オセアニアのセグメントにおいて、非経常損失の発生の可能性があるということを織り込んでおりますが、第4四半期の期中に状況の整理を行って、詳細は年度末にお知らせをしたいと思います。

当期の利益ですが、496億円で当初の予想比プラス36億円、プラスの7.8%、親会社の所有者に帰属する当期利益は481億円、当初予想比プラス41億円、プラスの9.3%と変更しております。

また為替レートですが、USドルは108円から105円へ、ユーロに関しては120円から123円に変更して計算をしております。

2-2. 2021年3月期 業績予想概要

【売上収益】

単位：億円	20/3月期 通期実績	21/3月期 通期予想 (2/2発表)	増減額	増減率	21/3期 通期予想 (前年7/30発表)
国内ガス事業	3,561	3,309	-252	-7.1%	3,560
米国ガス事業	1,988	1,865	-123	-6.2%	1,920
欧州ガス事業	1,655	1,577	-78	-4.7%	1,530
アジア・オセアニアガス事業	1,045	1,023	-22	-2.1%	1,030
サーモス事業	251	246	-5	-2.1%	260
合計	8,502	8,020	-482	-5.7%	8,300

【営業利益】

単位：億円	20/3月期 通期実績	21/3月期 通期予想 (2/2発表)	増減額	増減率	21/3期 通期予想 (前年7/30発表)
国内ガス事業	287	272	-15	-5.4%	312
米国ガス事業	222	214	-8	-3.9%	163
欧州ガス事業	248	210	-38	-15.5%	198
アジア・オセアニアガス事業	99	95	-4	-4.5%	103
サーモス事業	72	57	-15	-21.1%	63
消去又は全社	-26	-18	+8	-	-19
コア営業利益 計	903	830	-73	-8.1%	820
非経常損益	35	16	-19	-	-
営業利益	939	846	-93	-9.9%	820

また、11ページにございます各セグメント別の通期業績予想につきましても、7月30日に開示した内容から変更しておりますので、ご説明をいたします。

国内ガス事業ですが、今回の修正予想では売上収益は 3,309 億円となり、前回の予想から 251 億円の減額となります。コア営業利益は 272 億円となり、マイナス 40 億円の減額となります。新型コロナウイルス感染症拡大により景気が軟調である中、下期に想定していたユーザーの設備投資の需要回復に遅れが見られる、あるいは機器・工事の業績が想定以上に伸びていないというところが主な要因です。

続いて、米国ガス事業ですが、今回の修正予想では、為替の見直しの影響も含めて、売上収益は 1,865 億円となり、前回の予想から 55 億円の減額となる一方、コア営業利益は 214 億円となり、プラスの 51 億円となります。売上収益については、主に第 1 四半期に受けた新型コロナウイルスの影響によるものです。コア営業利益については、生産性の向上や徹底したコスト管理に加え、2Q では予想の中に含んでいなかった一過性の収益も含まれております。

続いて、欧州のガス事業ですが、今回の修正予想では為替の見直しの影響も含めて、売上収益は 1,577 億円となり、前回の予想からプラス 47 億円の増額となります。コア営業利益は 210 億円となり、プラスの 12 億円の増額となります。鋳工業を中心に需要が軟化して、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を最も大きく受けているセグメントではございますが、足元で鉄鋼向けの需要など、オンサイトの需要は回復してきていることに加え、やはり生産性の向上、コスト削減等の取組みが貢献しているというところが主な要因です。

続いて、アジア・オセアニアのガス事業ですが、今回の修正予想では、売上収益は 1,023 億円となり、前回の予想から 7 億円の減額となります。コア営業利益は 95 億円となり、マイナスの 8 億円の減額となります。これは 1 月より、東南アジアの一部の国では新型コロナウイルス感染症拡大の影響がまた懸念されているということ、また豪州では需要の減退期を迎えるということで、LP 価格が下がっているというところと併せて、これらの状況を踏まえて減収減益というかたちになっております。

またこれらとは別に、営業利益段階では先ほどお話しした非経常損失も反映をしている。こことは別の話としてございますので、お知らせいたします。

続いて、サーモスの事業ですが、今回の修正予想では売上収益は 246 億円となり、前回の予想からマイナス 14 億円の減額となります。コア営業利益は 57 億円となり、マイナス 6 億円の減額となります。巣ごもり需要を捉えたフライパンや真空タンブラー、家庭用品による増収効果はございますが、新型コロナウイルス感染症拡大により世界各国で実施された外出制限、感染拡大が収束せずに長期化していることによる需要低迷の影響を受けたことが主な要因です。

以上、2021年3月期第3四半期決算概況と業績予想の修正についての説明となります。ありがとうございました。

質疑応答

縦山：続きまして、質疑応答のお時間とさせていただきます。これに先立ちまして皆様に今回の留意点をご案内させていただきます。

本日の共同スピーカーは CFO 兼 財務・経理室長のアラン、IR 部長の梅原の両名でございますが、質疑応答は主に英語スピーカーのアランが行います。そのため、アランの話す内容は日本語回線では同時通訳者による翻訳で音声を配信させていただきます。あらかじめご了承をお願いいたします。

それではご質問をお願いいたします。

東：ジェフリーズの東でございます。ご説明ありがとうございます。

CFO に質問です。御社の収益性等を拝見すると同業他社、グローバルのトップ3 に比べて低いんです。これは日本の収益性が低いということを除いて、御社のヨーロッパと他社のヨーロッパと同じ地域を比べても負けてるんですけども、これはどういう理由が考えられるか。それと、これからどうやってそれをインプルーブしていくのか教えてください。

ドレイパー*：アランです。質問をどうもありがとうございました。

まず、いくつかシナリオを話したいと思います。日本のビジネスにおきましては、ディストリビューターのモデルをとっております。それに加えて、研究開発コストなどが日本の事業にアロケーションされていますので、それによって営業利益が低くなるということになります。結果を見たときに低くなるということです。

ヨーロッパの観点からしますと、競合に比べて確かに低くなっています。そしてまた、買収を行いますと、のれんの償却などがありますので、そういったことが過去2年におきましては、12月18日などに買収が行われたことによって、それによって低くなっているということが挙げられると思います。それを除けば同じぐらいになると思います。

アメリカにおきましては、オンサイトの事業は競合よりも低いです。オンサイトプラットフォームが小さいので、全体的に15%ほどがオンサイトのビジネスですけれども、これは一番大きな利益のファクターであります。

ほかの国におきましてはディストリビューターを使っているところもありますし、それ以外のところでは大体同じぐらいの利益率かと思います。

今後改善していくためには、10月1日にまず企業構造を変えました。その構造改革をした理由といたしましては、成功している分野をてこ入れして、そして各地域に広めていきたい。ベストプラクティスを広め、アプリケーションを共有し、そしてビジネスごとの知識の共有を行うことによって、強みを活用していく。各国の強み、各地域の強みを捉まえて、各地域に広げていくということをやっていきたくて考えております。

生産性も高めていかなければいけません。また、調達に関しましても強化する必要があります。様々なイニシアチブを考えていますけれども、まだ少し時間がかかると思います。そして、こういったことを含めて事業を牽引していきたいと思っています。ありがとうございました。

東：一つだけ追加で質問です。アメリカはメーカーポジションの部分が少ないから、これからメーカーポジションの部分を増やして行って、徐々に利益率を上げていくというシナリオは分かるんです。ヨーロッパはレベニューを伸ばすしかないんだと思うんですけど、レベニューは伸びますか。

ドライバー*：はい。全体的には既存のお客様の用途を増やすことを考えています。われわれの製品は、製造するものに何でも使われています。ガスは必ず使われます。

また、価格の改定も考えておりますので、全世界すべてのリージョンで成長する可能性はあると思います。

ヨーロッパだからといって特に懸念は考えておりません。いまヨーロッパのビジネスはこの四半期、非常に堅調です。鉄鋼、あるいは化学は回復しておりますし、短期的にはコロナの影響で少し上げ下げはあるかもしれませんが、見通しは非常にいいと思います。今後も好調だと思います。買収、あるいは設備投資も引き続き機会を捉えていきたいと思っています。これがヨーロッパの事業に関しての内容です。

東：ありがとうございます。

縦山：ご質問をお願いいたします。

榎本：BofA証券、榎本と申します。まず好決算おめでとうございます。三つお伺いしたくて、一つ目は決算に関してです。

第4四半期の見方について教えていただきたいですけれども、セグメントによって強弱感がだいぶバラバラでして。もしよければセグメントごとに、第3四半期から第4四半期にかけてどういった見方をされているのか教えてください。

特に欧州が、利益が増えるところが目立ってるんですけど、季節的に弱いと思うんですが。まず四半期の利益の動向について教えてください。これが1点目です。

ドライバー*：ヨーロッパの観点からしますと、全体として、いまおっしゃったように、私たちは回復を続けていき成長を続けていきます。第4四半期ですけれども、今後も改善すると考えており、大規模な事業においては回復が続くと思っています。

ヨーロッパ、スペイン、イタリアにおきましてはプラスのGDPの基調となっております。コロナを克服していかなければいけないわけですが、恐らく第4四半期にはよい成長が見られるのではないかと考えています。過去数日確認したところではスムーズにすべてがいていますので、私たちが4Qの予測で出したものに関しましては達成できると考えています。

来年度に関しましては、通期の予測をお見せするときにまたお話しできればと思いますけれども、今後6週間～8週間で、2021年度に向けての予測をファイナライズしていきます。

榎本：2点目が、決算と離れるかもしれませんが、ドライアイスについてお伺いしたいです。COVID-19のワクチン輸送で、ドライアイスの需要が高まっていると思うんですけど、実際にドライアイスの需要がアメリカとか欧州で足元、高まったのかという点と、あと日本でも使うと思うので、今後ワクチン輸送で伸びていく局面で、ドライアイスの需供をどう見ていらっしゃるのか教えてください。

ドライバー*：そうですね、全体的にドライアイスは今、上がっています。しかし必ずしもワクチンに絡んでではありません。たくさんの食品のデリバリーがあります。これはステイホーム需要によるものです。食品を冷凍したり冷蔵したりするのにドライアイスを使うわけですが、輸送に。二酸化炭素のドライアイスを使っています。ですので、ワクチンとは関係ないです。

ワクチンに関しましてアメリカ、ヨーロッパ、日本で、二酸化炭素のネットワークを拡大しております。製薬会社、あるいは政府とも話し合いを進めておりまして、きちんと供給ができるように担保しております。しかし今、非開示の契約をしておりますので、なかなか詳しいことは言えません。

しかし日本、ヨーロッパ、そしてアメリカでは二酸化炭素のドライアイスの観点からサポートがありますので、不足をするということはないと思います。あまり大きな業績の後押しにはならないと思います。全世界的に若干の追い風にはなるかもしれません。

榎本：最後に、これも決算と離れるんですけど、水素に関して取り組みを教えてくださいたいです。日本でカーボンニュートラルという政府の新しい方針が出て、御社、水素も製造しますので関わると思うんですけども、具体的にこういった方向に向かうのか、もし可能だったら教えてくださいたいです。例えばAir Productsみたいに製造に関わるのか、それとも岩谷産業みたいに流通に関わるのか。いま、もし何かご見解がありましたら教えてください。

ドライバー*：全体として持続可能なプロジェクトというのはすべてよいことですので、私たちがサポートしていきます。

現在、アメリカにおきましては水素を、そしてヨーロッパにおきましても一部、水素を提供しています。お客様の一部は水素を活用して輸送に使ったりしていますので、そういった中ですでにグリーンイニシアチブに私たちは参加していると言えます。

そしてヨーロッパにおきまして、二つほどのフリートでそういった水素の提供がありますし、CO2の分離に関しましても私たちは協力していきたいと思っています。

コスト削減のプロジェクト、そして生産性を上げるプロジェクト、そういった環境にも優しいプロジェクトに私たちはサポートしていきたいと考えています。

様々なサステナブルな取り組みの議論も世界各国で行っています。例えばカーボンニュートラルですとか、バイオフェュエル（生物由来燃料）、バイオガス（生物由来ガス）、そしてオキシコンバッション（酸素燃焼）、そしてモビリティのプロジェクトなど、様々な議論が長期的なプロジェクトとして行われています。6カ月から1年ほど交渉にかかるプロジェクトでありますけれども、私たちにスキルがありますし、様々な技能も持っていますので、いろいろな機会が今後出てくると考えています。

まだ実りが出ているものはないわけですが、適切な機会を捉まえて事業に活用していきたいと思っています。

榎本：ありがとうございました。

縦山：ご質問ありがとうございました。それでは続いて次の質問に移ります。

山田：みずほ証券の山田と申します。よろしくお願いたします。3点あります。

一つ目は、非経常項目の数字の確認です。セグメント利益から税引前のところを見ると、持分法による投資損益で27億4900万円プラスが出ていて、これが訴訟に関する和解ということですが、なんでこういう書き方になっているのかというのと、その他のところとネットして26億ということだと思うんですが、なんで分かれているのか。

あと、第4四半期に出そうな11億円の非経常項目ってアジア・オセアニアということですが、どういう種類のものか、発生確率、どれぐらいの確度で発生しそうなのか確認させてください。お願いします。

ドレイパー*：全体的にわれわれの非経常損益が26億、これは和解から来たものです。これはノンコアです。われわれの営業事業とは異なりますので、これを分けています。独立のラインにしています。非経常だからです。

それから第4四半期ですけれども、アジアでわれわれの経営の管理から徹底的に見直さなければいけない、まだ結果が分かってないんですね。1週間ぐらい前にある問題が発覚いたしまして、これは全く新しい情報ですけれども、これを投資家に対して、特に多くのサプライズがないように、こちらで申し上げたわけです。10億を超えることはないと思いますけれども、それよりも下回る可能性はもちろんあります。

山田：ノンコアでなぜ、和解費用が持分法投資損益になるかというのを知りたいんですけど、和解の受取金が。

吉田：経理部の吉田よりお答えいたします。

当該和解金が持分法投資会社のほうに入っております、その持分比率に応じた和解金の分が持分法投資利益を通じて計上されておりますので、持分法投資利益という形で表示させていただいております。

山田：なるほど。これで一応、ヘリウムが来なかった分の和解っていうのは終わりですね。

吉田：はい、おっしゃるとおりです。

山田：はい、ありがとうございました。

二つ目です。キャッシュ・フローの考え方ですけど、今回、ネットデットがあまり減っていないのですが、業績が回復した割には。背景、ヨーロッパなどで前おっしゃっていた、ノルウェーのサーモン養殖とかそういったプロジェクトがかなり復調して、投資が再開されてきているのか、何かの理由があったら教えてください。併せまして、先ほどのヨーロッパの成長機会ですけれども、もともとおっしゃっている投資機会が実際に実行できるような形に本当になってきたのかどうか確認させてください。これが二つ目です。

ドレイパー*：全体としてプロジェクトは、ノルウェーでは遅延しているんですけれども、あと2カ月ほどで始まることになっています。サーモンの養殖の酸素プラントですけれども、これについては3月に始まる予定です。ノルウェーに入ることにしまして制約があり、そういったことによって数カ月遅れてしまったということもあるんですけれども、全体といたしまして、これは配当金が出てきて、キャッシュ・フローをポジティブにしてくれる要素となります。

プラントに関しましては稼働を始めて、そしてサーモンというのはノルウェーだけではなくて日本でもよく食べられるものでありますので、こちらに関しましては期待が持てると思います。

キャッシュ・フローについてですけれども、割と良い実績であると思います。

デットに関しましては返済などがあります。というのはバランスシート上にキャッシュがたくさんあります、1,000億円ほどのキャッシュがありますので。ただ、流動性の危機などに関しましても注意を払わなければいけません。

2月、3月などに関しまして、デットポジションを改善していきたいと考えており、D/E レシオに関しましては今年、そして今後数年で改善していくというふうに考えております。

山田：これは、デット・エクイティ・レシオとキャッシュ・フローは想定線上なんですね。

最後にもう1点。アジア・オセアニアガスのところで、先ほど増減益要因分析で、エレクトロニクスの特許ガス、35億円の対前年同期比増収要因なのに2億円の増益要因にとどまっております。この背景、限界利益率が見た目すごく悪いんですけれども、何か費用が積み増されているのか確認をお願いします。以上です。

梅原：梅原です、回答させていただきます。

エレクトロニクスの事業、アジアですね。こちらに関しては、確かに利益がまだ出てきていないところはあるんです。工事の案件に関しては大きな利益を取れている状況では、これは今回に限らずですけれども、ないというところが一つあります。

ガスについては利益率、高いものが多いですけれども、一部のやはり競争の激化がありまして、当社の主力製品ではないところでは競合の製品も入ってきていると。廉価の製品が入ってきているところもあるので、利益については少し減少傾向がございます。

あとは、新しい工場を作っているの、前期に比べると償却の負担等も少し増えていることもその要因になっていると認識しております。

決して需要が落ちてきているとか、当社の競争力が落ちてきているということではないです。

山田：新工場建設による固定費増及びスタートアップコストの増加が主な利益圧迫要因で、そこをこなすと、また限界利益率がある程度高く伸びると私たちは期待していいですか。

梅原：そうですね、その方向で。いま実は新しい工場の稼働もまだフルにはなっていないくて、テストをしている最中ですので。これからどんどん稼働率上がっていく方向性でいま、出ておりますので、その際には利益も伴ってくると認識していただいて結構です。

山田：はい、分かりました。ありがとうございました。

樺山：ご質問ありがとうございました。お時間が迫ってまいりました。複数の方から質問をいただいているんですけども、まことに恐れ入りますが、次の方で最後のご質問とさせていただきたく存じます。

河野：野村証券、河野でございます。よろしくお願いいたします。

資料 11 ページ拝見しております。新しい計画の内訳ですけども、米国ガス需要についてお伺いします。こちらは期初計画に対して売上は足りないんですけども、利益は期初計画よりもかなり出ると、こういう結果になりそうだとということだと思えます。

これほどアメリカ事業の利益が当初の見通しよりも出そうだとということになる背景を、ご説明お願いできますでしょうか。

ドライバー*：アメリカの事業ですけども、大変好調です。価格に関しても、そして生産性に関しましても改善しています。そしてコストも削減されていますし、ヘリウムに関しましても事業が好調です。

数量は横ばいか少し下がっているんですけども、その中で営業利益が改善しているんです。売上に関しましては下がりますけども、そういった中でもこの 4Q に関しましては利益が上がると見込んでいます。

河野：価格、生産性、ヘリウムとご説明いただきましたけど、どの要因が一番大きいんでしょうか。価格の修正の効果が大きいのか、生産性なのか。もう少し定量的なイメージを教えてください。

ドライバー*：全体的には、大体 3 分の 1 ぐらいが価格、3 分の 2 が生産性の向上です。ライトウェイトプログラムというのがあるんですけども、こちら非常に強力で推進していきまして、コロナが来て、すぐにコストに取り組んでおります。たくさんコスト削減努力を行っております。非常にいい仕事をして、前年比でコストを低く抑えています。ですので、3 分の 1 が価格改定、そして 3 分の 2 が生産性と申し上げたいと思います。

河野：分かりました。

質問もう 1 点お願いしたいです。先ほどの山田さんの質問にもかぶるんですけども、アジア事業のコア営業利益の推移を見ますと、7-9 月期が 33 億円で、10-12 月期が 24 億円ということで 9 億円ほど落ちてます。

売上が横ばいということですが、これが先ほどご説明になった新工場立ち上げ費用とか、7-9月から10-12月にかけてアジア・オセアニア事業の利益が9億円減った理由というの、同じようなご説明になるのでしょうか。お願いいたします。

梅原：梅原です。直近の変化に関しては、その利益が大きく下がる要因が工場の負担というわけではないです。こちら、どちらかというと、やっぱり販売面の、先ほど申し上げた当社の自社製ではない、仕入れ品的なものの中での価格競争があるということになりますけども、エレクトロニクスだけではないですね。

そういった意味ではそれ以外の部分で、ヘリウムであったり産業ガス系のところでもやはり少し懸念事項があるということです。予想の中でのマイナスを見ているということで、ここに含まれているのはエレクトロニクスだけの話ではないと理解していただきたいと思います。

河野：全体的に少し競争激化してるということでしょうか。

諸石：経営企画室、諸石です。特に中国ですが、ヘリウムの価格、販売価格・市場価格が下落しておりまして、その影響を4Q、固めに見込んでおるような事情もございます。

河野：分かりました。ありがとうございました。

縦山：ご質問ありがとうございました。

こちらで質疑応答のお時間を終了させていただきたく存じます。お時間の都合によりましてお受け付けできなかったご質問については後日、個別のご取材で回答させていただきたく存じます。

それでは、これにて2021年3月期第3四半期決算説明テレフォンカンファレンスを終了させていただきます。なお、本日の電話会議の内容は後日、当社コーポレートサイトのIRページにて公開する予定でございます。

本日はご多用のところ、当社のテレフォンカンファレンスにご参加いただき、また、多くのご質問をお寄せいただき、まことにありがとうございました。

登壇者：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 本トランスクリプトは企業の同時通訳音源を書き起こした内容を含む
2. *は企業の同時通訳の書き起こしを示す

注意事項

本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本説明会および本資料には、将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されております。これらは現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断・想定したものであり、実際の業績はさまざまなリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがございしますが、これらに限られません）を含んでおります。

このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございすことをお含みおきいただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願い致します。